

開会 平成31年2月18日
閉会 平成31年2月18日

足利市総合教育会議

足利市教育委員会

平成30年度第2回足利市総合教育会議会議録

1 開催日時 平成31年2月18日(月)
開会 午後3時30分 閉会 午後4時50分

2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室

3 出席者

市長	和泉	聡
教育長	若井	祐平
教育委員	笠原	健一
教育委員	市橋	雅子
教育委員	菊地	義典
教育委員	照本	夏子

4 会議出席した事務局職員

総務部長
教育次長
教育総務課長
文化課長
史跡足利学校事務所長
教育総務課庶務担当総括主幹
教育総務課庶務担当主幹
教育総務課庶務担当主査

5 傍聴 傍聴者 1名
報道機関 1社

6 会議日程

日程第1 議題(1) 史跡足利学校の価値及び釋奠の意義の発信について

7 議事の経過

○ 開会

○ 和泉市長あいさつ

皆さんこんにちは。お忙しい中、今年度の第2回となります、総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

本日の議題ですが、「史跡足利学校の価値及び釋奠の意義の発信について」ということになっています。足利学校ですが、皆さんご承知の通り、市民にとっても大変貴重な文化遺産といえると思います。これを、市内外に発信し、特に市民の足利学校に対する思いをこれまで以上に高めていきたいというふうに考えているところです。そのためには、市の取り組みとして、これからどのような発信が考えられるかという論点が必要です。それに絡む論点について、今日、有意義な意見交換と協議をしていただければと思っています。

史跡足利学校には、観光資源としての高い価値がありますが、今回の会議では、「足利市の教育目標」の柱である、「郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興」、「主体的な生活態度の育成」などの視点に立って、教育文化面を基調として議論をしていきたいと考えています。

本日はよろしく申し上げます。

○ 若井教育長あいさつ

それでは、一言ご挨拶を申し上げます。今日は、足利学校がテーマということですので、情報提供ということで、市内の小学生、中学生が、教科書の中でどのように足利学校を勉強しているのかということ、簡単に紹介させていただきます。

まず、小学校4年生、社会科の授業の中で、「のびゆく足利」という副読本を使って勉強しています。この中に、「かつやくした先人たち」というのが出てきます。足利学校を守るために、いろいろな方がどんなことをしたのかということ、これを調べる際にこれを使っていますが、田崎草雲とか、相場朋厚、川上広樹、原田政七、丸山瓦全、こういった先人たちの業績を学んでいます。そして、その学習の発展として、探検足利学校、足利学校の歴史ということで、出てきます。この中には、釋奠のことであるとか、孔子のことであるとか、あるいは足利学校で、易学、兵学、儒学、どんな勉強をしていたのかということ、これをもとに勉強しています。これは小学校4年生です。

中学生になりますと、全国版の文部科学省の検定を受けた、中学生の歴史、この本の中に、足利学校が出てきます。これは、室町時代の文化の中の一つとして紹介されています。室町時代の文化というと、雪舟の水墨画とか、あるいは、書院造とか、そういった中に、足利学校が当時多くのお坊さんなどが集まって勉強したという紹介が出ています。

それと、あらためて学校教育課の方に聞いてみたら、算数の教科書にも出

ているとのことでした。今は使われていませんが、これも全国版の教科書です。この中の表紙の裏に、足利学校の写真が出てきます。なんで、算数と関係あるのかというと、水直と並行という、それが、足利学校の方丈の柱、これが、柱と柱が平行であるとか、垂直であるとか、そんな紹介の中の一つで出てきています。いずれにいたしても、こういった学習を通しながら、子どもたちが勉強しているわけですが、こういう学習で、子どもたちが足利という地域に対する誇り、愛着、あるいは、地域社会の一員としての自覚といったものを学ぶ題材として取り扱っています。

今日はよろしく願いいたします。

○ 日程第1 議題(1)

市長

最初に、先月の20日にBSのTBSで放送された、「日本遺産 足利学校特別編」という番組があるので、これをメンバーで見たうえで、意見交換のきっかけにしたいと思う。

「日本遺産 足利学校特別編」ビデオ上映

市長

今、VTRをご覧いただいたが、事務局から、足利学校の価値及び釋奠の意義や、現在の発信状況について、説明をお願いしたい。

事務局

足利学校の価値と釋奠の意義の発信について、足利学校の取り組み状況を話したい。

まず、足利学校の価値の発信については、三つほど取り上げたい。一つ目は、ただいまビデオにあったように、日本遺産としての広報、あるいは、世界遺産を目指す取り組みがある。平成27年に、日本遺産に選定されて、広報ビデオの制作、あるいは、外国語アプリの導入などを行った。また、昨年11月には、文化庁に、世界遺産検討状況報告書を提出し、世界遺産暫定一覧表に向けて努力をしている。世界遺産の報告書を出したときに、下野新聞に「儒学の視点で世界遺産に」ということで、掲載をされた。

資料の中に、青山学院大学の橋本秀美先生が、今年の釋奠の講演の中でお話をしていただいた資料がある。「南宋官版と足利学校蔵本の価値」ということで、足利学校で所蔵する、中国の南宋の官版という、公のところで印刷した本で、これが非常に価値がある。足利学校の国宝書籍が貴重である理由の②に、

周易注疏、礼記正義、文選など、最初の版で刷られたものであるとか、最初に近いものであるといったことで、世界的に見ても、これらの本に大変貴重な価値があるということをお話しいただいた。

二つ目としては、学問教育の場としての発信がある。足利学校の「自学自習」の精神は、本市の教育目標、あるいは、新学習指導要領の「主体的な学び」などに受け継がれている。現在市内の小学校が、4年生、中学校は、1年生が論語素読体験を行い、学問、教育の場として、活用されている。本日の資料の中に、「足利学校に対する市民の意識」の調査の資料がある。この資料を見ていただくと、「たいへん誇りに思っている」、あるいは、「誇りに思っている」と答えている小中学生が、次第に増えているということで、論語の素読体験など、学校で行うことによって、少しずつ浸透しているものかと思っている。

三つ目の特徴として、本市の象徴としての価値の発信がある。市民憲章に、「足利市は日本最古の学校のあるまちです。」とあるように、足利学校は、本市のアイデンティティを形成する重要な存在である。正月の下野新聞では、平成遺産として取り上げていただいた。平成2年に完成した、復原建物など、歴史ある足利学校を、まさに平成遺産として蘇らせたものだ。

次に、釋奠の意義の発信である。釋奠は、本市を代表する伝統行事として、百年以上にわたって継承されている。国内でも十数か所しか実施されていない、貴重な行事であるばかりでなく、中国、あるいは韓国の孔子廟などでも行われている、東アジア全体に広がる伝統行事である。したがって、これを継承していくということは、我が国はもちろん、世界にとっても意義のあることと思っている。5年前には、こども釋奠も始まり、次世代を担う子どもたちにもかかわっていただいている。

以上のように、足利学校の価値及び釋奠の意義は、ともに高いものがあり、その発信にも取り組んでいるところだが、市民に、これらが行きわたっているかという点、十分ではない部分もあるかと思う。そこで、本日は、足利学校の価値や釋奠の意義について、今まで以上に、市民に伝え、誇りとして、次代に引き継いでいくにはどのようにしたらよいか、ご意見を賜りたい。

市長

今流したビデオ、事務局からの話を踏まえたうえで、足利学校に対する、市民の思いをさらに高めていくという視点から考えられること等について、意見交換をしていきたい。一通り、委員の皆さんから、足利学校に対する考え方や思い等をお話しいただければと思う。

委員

今日の下野新聞に、世界遺産の講演会に関する記事があった。参加した方のコメントで、「足利学校などの遺産は、市民にとって誇り」というのがあった。「どのように残し、活用していくか考えを深められた」というコメントがあった。それから、2月上旬に足利学校に行ったら、学校門のところの寒紅梅が非常にきれいに咲いて、観光客がたくさん来ていた。こんなに来てくださっていると感心した。ただ、足利市民全体を考えると、足利学校に対する、興味、関心とか関係の度合いによって、かなり温度差があるのかなと思う。

先ほど、市民の意識調査のデータが出たわけだが、第7次のところで、誇りに思っているか、たいへん誇りに思っているというのを見ると、九十何パーセント、八十何パーセントということなので、この結果はうれしいと思う。

今日の会議のために、今までのいろいろな資料を見て、自分なりの考えを、もう一度見つめてみた。今まで、足利学校は、どういう発信をしてきたのかとみてみた。いろいろな部署ごとの発信があると思うが、昭和45年に市民憲章が制定された。その一番頭に、「足利市は日本最古の学校のあるまちです。」とある。その時の人が、いかに足利学校に対して思いを持っていたかということを感じた。

私は、昭和46年に教師になった。この後の流れが、教職と通じるところがある。そして、平成2年に今の足利学校が、復元された。これも大きなことだったと思う。そして、平成16年に市立美術館10周年の記念に、足利学校展を行った。その時に作られた冊子がこれで、大変立派なものになっている。これを見ると、詳しく足利学校のことをわかる。現在は、足利学校を知る上では、貴重な本で、理想を言えば、市民に持っていてほしいという思いがある。それから、平成27年に日本遺産に認定され、その前後で、世界遺産を目指すために、シンポジウムが何回か開かれて、足利学校をアピールしてきたと思う。そして、「足利学校復元25周年のあゆみ」という冊子も出た。そのあと、平成28年に「足利学校国宝展」があり、次の平成29年に「山姥切国広展」で、大盛況だったという流れがある。

こう見てきて、子どもたちへの発信はどうだろうかということ考えた。今から、約20年位前に、「のびゆく足利」の編集員にさせていただいた。この時は、作る側としては、思いがあった。とにかく子どもたちに、足利市に対する誇りと、愛情を育てようと、そういう本を作ろうという思いをみんなが持っていた。内容的には、教育長がお話しした通りで、「かつやくした先人たち」が、4年生で学ぶ範囲にあるが、そのなかに、足利市の歴史とか、釋奠のこととか、足利学校の見学の学習が入ってくる。どの学校も、だいたい見学に来ているのかなと思う。子どもたちは、これをやるので、足利学校は、必ず頭に入ると思う。そのあと覚えているかどうかは別として、学習はするというので、私は

とらえている。子どもは、そんなことで、足利学校を学んでいるし、先ほどお話をあつた、論語の素読でも、小学校、中学校とも来ている。それぞれの子どもが中学校を卒業するまでに、2回か3回は、足利学校に来ていると思う。

次に、大人への発信ということで見ると、いくつか大事なものがあると思う。今までやっていることをもう一回見直したほうがいいことと、新しくやることを考えてみた。今までやってきたことで、大切なことというのはいくつかある。

一つ目は、生涯学習振興大会だ。大会のパンフレットの中に、こんな文言がある。「足利学校は、市民の誇りであり、心のよりどころとなっています。そこで、足利学校のある学び舎のまちにふさわしい、先人の英知を次代を担う若い世代に継承すべく、この大会をやっている」ということで、足利は、学び舎のまちという、足利学校から流れてきている大事な部分があると思う。去年は、41 回行った。私は、最初から出ているが、最初は、土曜の午後だった。土曜に仕事があつて、午後、小中学校の先生は、全員参加した。市民会館の大ホールだった。3 年くらいは、全員参加だった。人数も多いし、盛り上がる感じがした。今は、担当部署が生涯学習課だが、以前は、学校教育課でやっていたと思う。その時の熱というか、熱い思いを、今、思い出した。41 回続いていることが素晴らしいが、熱い思いというのは、伝わっているのだろうかと思う。その思いをさらに振り返って、足利にとっては大事な大会だと、足利学校からつながっている、それをもう一回思い出してもらえようかなと思う。

二つ目は、足利学校アカデミーだ。アカデミーのパンフレットにも、こんなことが書いてある。「史跡足利学校では、教育の原点ともいえる、その歴史を今に生かすために、現在に蘇る足利学校として、著名な大学教授など、各界を代表する先生方を教師として、アカデミーを開いている。」この辺も、毎回参加してくださっている、熱心な方もいらっしゃるが、全く知らない方もいるのかなと思う。これが、現代の足利学校というとらえなので、さらに、見たい、聞いてみたいというような講師陣に来ていただくとか、そういう部分で盛り上げて、今の足利学校は、これなのだということころを、もうちょっと熱が入るといいなと思う。

三つ目は、釋奠だ。釋奠も、11 月 23 日に行っているが、それに先立って、9 月にこども釋奠を何年かやっている。こども釋奠の体験者が、こども釋奠の OB として活躍場面を作り、その人たちの跡を継いでいくというような流れ作りたいたいという声が、保存委員会の中では出ている。生涯学習振興大会から、11 月の釋奠、その辺は、生涯学習強調月間となっていると思うが、これについては、釋奠を盛り上げるような、例えば、10 月、11 月ごろの、公民館で行われる講座の始まる前に、足利学校の DVD を流して、感情に訴えろとかいうこともできるかなと思う。

今後の新しい発信として、一つ目は、十数ページくらいで、例えば 200 円くらいの小冊子を作って、足利学校の歩みとか、創建とか、教育内容とか、保存運動とか、現在の足利学校などを盛り込んだものを作って、それを啓発用に使ったらどうだろうと思う。やはり、200 円でも、100 円でも、お金を出すと、ただでいただいたものよりは、読んでみようという気持ちもわくのではないのかと思う。例えば、新幹線に乗った時に席においてある、トランヴェールという冊子の中に、足利学校が載った。これが十数ページある。写真とかきれいで、たいへんよくできている。ある社報の中で取り上げて、十数ページで、大変よくまとまっているものもある。こういうものを、足利として作ったらどうだろうと思う。3、4 年生を教える先生は、若い先生が多いが、初めて先生になるのは、今は、ほとんどが、他市町からきている方だ。足利のことを知らなくて教えるので、足利を教える場合、子どもにとっては、どうなのだろうという部分もあるので、そういう先生方にも読んでほしい。また、足利市役所の職員の方にそれを読んでいただいて、足利市の仕事をしている人は、足利学校の発信者になってほしい。それぞれの窓口で、足利学校のことをわかる人がいるというのがあったらどうかと思う。

最後に、誰でもがみるのが、あしかがみである。あしかがみの中に、コラムとか、足利学校の枠を作って、一度に全部をではなく、一つずつ、例えば、孔子廟について、今は、工事中でこうなっていますよとか、歴史とか、学校門は、今、寒紅梅が咲いていますよとか、お堀であれば、カルガモが行列を作っていますよとか入れながら、市民に親しめるようなコラムを入れたらどうかと思う。

委員

足利学校は、誇りに思っているが、私は、教育委員を受けるまでは、それほど、足利学校のことを知ろうとか、深いことがわからなかったのが、正直なところだ。教育委員を受けて、釋奠にも出ささせていただく中で、例えば、相場朋厚さん、おそらく、「のびゆく足利」に載っていて、小学 4 年生の時に学習したのかもしれないが、相場朋厚さんのことも知らなかった。どういう考えで、釋奠を始めたかということも、教育委員になって、初めて知ったところもある。

DVD の中で、さらっと流されていたが、先人たちが守ったからこそ、今日の足利学校があるのだと思う。それを知る機会は、学習の中で、小学校 4 年生の「のびゆく足利」だけにしか載っていないというのは、頭のいい子は覚えているだろうが、私などは、忘れてしまっている。江戸末期から、明治とか、昭和とか、そのくらいの、足利学校を守った人たちにスポットライトを当てて、もっと、市民に知らしめるようなことが、機会としてあれば、より、先人たちは、いかに努力をされたか、また、何かあったときは、我々が守らなければいけない、そういう気持ちになるのではないかと思っている。

もう一つ、昔の記憶で言えば、私は、小学校の低学年の時に、釋奠を見た。それは、私の祖父が、孔子のお祭りがあるから見に行こうと行って、私は、屋台とか出て、楽しいものなのかなと思っていて、こんなつまらない祭りがあるのだというのが、私の最初の釋奠との出会いだ。どこを対象としてどう見せるかというのが、大事ではないかと思う。そういう中では、先ほどお話ししたような、先人たちが、どうやって、足利学校を守ってきたかというのも、小学校4年生だけではなく、知らしめることが大切ではないかと思っている。

委員

具現状況評価報告書のアンケートを見て、たいへん誇りに思っている小学校6年生、中学校3年生、三十数パーセント。人間、アンケートに、たいへんとか、特別というところは、比較的書きにくいと思うが、その中で、Aのたいへんが、36パーセント、38パーセント、これだけ入っているのは、論語を素読した方丈での体験などもあるのかと思う。逆に言うと、17歳青年、17パーセントというのは、27年3月発行だと、方丈での素読体験などは、ぎりぎりやっていないのかもしれないと思う。

小学校6年生、中学校3年生、あるいは、高齢の方の40パーセントから50パーセント、これは、素晴らしいことだなと思うし、ぜひ、誇りに思っているところから、さらに、たいへん誇りに思っているというのが、さらに増えるといいと思うし、次に第8次などをやると、そういうのがもっと増えてくるのではないかという期待感がある。

そういう意味では、足利学校というのは、論語とセットにすべきだと思う。論語が、足利学校の価値を高めていく、あるいは、足利学校に対する、非常に誇りを持つ気持ちを高めていく、そういうことが、きっとあるのではないかなと思った。

もう一点は、先ほどもお話があったが、足利学校を支えていた過去の人、私は、田崎草雲のことも、最近になって知るようになったことが、いっぱいある。この間「歩き愛です」があり、私も参加した。西宮の長林寺に田崎草雲の墓があるとか、常念寺の階段を上がって、観音堂から東を見て、渡辺崋山が、大間々の町として描いたのは、実は足利だったとか、まさしく、同じ風景だった。田崎草雲と渡辺崋山は、どういう親交があったのかとか、足利学校から、いろいろな人や、当時の歴史に思いをはせたり、自分として、足利学校を知っているがゆえに、知識の広がりとか、関心が高まっているのが、うれしく思う。

世界遺産になった、伊豆の国の葦山反射炉だが、当時、そこに江川家という、世襲制の代官がいて、三十何代目かが、時の老中に命じられて、お台場を造ったり、お台場で撃つ大砲を造ったりするために、反射炉を造ったらしい。その江川さんは、谷文晁の弟子か何かだったり、渡辺崋山と親交があったりとい

うことが、代官屋敷の中の資料としてあった。田崎草雲との接点というのは、そこまではなかったが、もしかすると、そういう人とも接点があったのかなと思う。あるいは、その代官屋敷へ草雲が行ったのかと、これは、勝手な想像も含めてだが、足利学校を支えてくれた人、あるいは、当時の環境が、足利学校をもとにして、展開ができるというか、本当に、足利学校なり、足利学校を支えた人たちというのは、いかに、親交があったり、いろいろな関係性があったりするということも、足利学校に対する魅力とか、足利学校の誇りになる部分があるのではないかと思う。

田崎草雲もしかりだが、もう一人どうしても足利学校で素晴らしいと思うのは、前田先生が庠主を務めていただいている、今の史跡足利学校という制度だ。庠主のことばの 20 分くらいのお話の中に、もの凄くいろいろないい話が凝縮されていて、前田先生のお話は、淡々とお話しされるが、素晴らしい話が散りばめられて、凝縮されて話をされていて、釋奠に限らずして、足利学校の来場者に聞かせてあげたい、見せてあげたいと思う。昔の思いをはせる足利学校と、今のいろいろな意味での足利学校の思いをはせられる、発信の本陣は、前田先生だと思う。

委員

私は、今、学習支援団体の運営に関わっているが、子どもたちに、学習時間の後半、勉強のカルタを選ばせている。そうすると、論語カルタを選ぶことが非常に多い。そういう意味では、論語というものが、足利市内の小中学生に、自然に受け入れられて、また、足利学校の存在自体が生活に溶け込んでいるのだなということも感じる。

私自身について言えば、山前地区に住んでいて、非常に街中は遠かった。足利学校というのは、教科書に出てくる、日本最古の学校だというくらいの認識でしか見ていなかったし、釋奠という儀式は、私は、足利に戻ってきて、足利ふるさと検定を受けるまで知らなかった。

今回、こういったところで発言するのに際して、郷土愛って何かなということを考えてみた。そうすると、今住んでいる場所というのは、日常生活を送っている場所なので、愛着を感じていると感じることがとても難しいと思う。でも、普段愛着については感じていなかったとしても、先ほどの教科書とか、テレビとか、そういったところで、足利の様子を見たとき、もしくは、住む地域の違う足利出身の方が足利に帰省した時に、例えば渡良瀬川を見たりとか、足利学校を見て郷土に対する愛を感じるものだと思う。そういうことを思うと、第三者から足利学校について提供される情報を見ることが、郷土愛を感じる、一つのきっかけになるのではないかなと私自身は感じている。

釋奠という儀式を行っている足利学校を知ってもらおうというテーマだと思

う。確かに、儒教というのは、日本人の考え方に影響は及ぼしているとは思いますが、儒教自体は、教科書で知る程度のことだと思う。もし、釋奠という儀式、足利学校を知ってほしいという思いがあるのであれば、もう少し広く、釋奠という儀式について、足利の人だけではなくて、全国的に知ってもらいきっかけがあったほうがいいのかなどと思った。

先ほど、日本でも十か所くらいで釋奠という儀式が行われているということなので、それを足利市からだけ、釋奠を知ってほしいという思いを発信するのが難しければ、他市と連携をとって、釋奠についてもっと知ってもらい機会を増やすとかいうことも一つ有効な手段ではないかなと思う。

具体的に何をしたらいいかというところまで思いつかなかったが、私が山前地区に住んでいたということを申し上げたが、大人にとっては、足利市内というのは、どこでも足利だが、子どもにとっては、時分の住む地域と中心部との距離は非常に大きいものだと思う。高齢者の方とか、そういった方々に、足利の今昔について話をしてもらいような機会を子どもたちに与えることができれば、もっと、もちろん足利学校のこともそうだが、足利について知ってみたいという思いを持つきっかけを与えられるのかなと考えた。

教育長

私が、最近よく感じているのは、「足利市の教育目標」もそうだが、足利学校が、市民の皆さんの普段の日常の生活とどうかかわっているのかというあたりを発信できるといいと思う。例えば、先ほどの元号、それが足利学校に所蔵している書籍の中から出ている。そのことを、私は今まで知らなかった。その話を聞いたとたんに、グッと足利学校が身近に感じられる。そうだったのかと、改めて足利学校という素晴らしさを認識を深めることができた。

そういう、普段の生活と足利学校がどうかかわっているかということで、先日 PTA の会長研修会、そこで「うち読」の話が出た。その時に、最後に、教育委員の方々に一言ずつということで感想を求められたが、その中で、先ほどの市民憲章の第一番目に「足利市は、日本最古の学校のあるまちです。」と、読書を絡めて、皆さんがいま取り組んでいる「うち読」は、足利学校の教養を高めるという意味で、市民憲章の一番を具体的に行動に起こして下さっているということだと、日ごろのとりくみと結び付けて、委員さんがお話しされた。多くの PTA 会長さん方、役員の皆さんがうなずいてらっしゃった。いろいろなところで、遠くの過去の歴史、それは素晴らしいものを持っている。今の私たちが自分たちの生活と足利学校がどうかかわっているのかというところを、それぞれの皆さんの立場で、いろいろなところで紹介するというのも大事なのかなと思っている。

先ほど、足利市の教職員が、足利出身ではないから、足利学校についてよく

知らない方がいるというお話があった。まさにその通りで、足利市で教員になって、まず、最初に研修を足利学校を会場に行く。足利の子どもたちの前に、教壇に立つからには、まず、足利学校で研修をさせようということで、研修の中で足利学校を見学するのはもちろんだが、これはずっと前から行っている。

足利学校と、今の国の示している、学習指導要領とのかかわりということで、話をさせてもらいたい。今の、生きる力という考え方と足利学校の建学の精神はイコールだと思う。室町、もっと前から脈々と足利学校で学んできた人たちの学び方というものは、実は、今日までそれが伝えられて、今の国の教育の方向もそれと一致しているということ、新採の先生方にまず知ってもらって、そして教壇に立ってもらいたい。同様に、足利で校長になったときは、足利学校の席主の墓に墓参りに行く。また、定年退職の辞令をもらうと、足利学校の席主の墓に、報告に校長先生方が行く。そういう、今の私たちの身の回りのかかわりを足利学校が持っているという、そういったところを知らせることが、歴史に興味がない方でも、あるいは仕事で忙しい方でも、普段の自分たちの生活で、こんなかかわりあったのだということ発信していく、それが大事かなと思っている。

市長

皆さん方から出た論点の中で、共通するキーワードとして出てきたのが、釋奠の話が、一つあって、私も、正直言って、市長になるまで釋奠に行ったことはなかったが、伝統的な儀式が行われているということ、および、その意味合いを、もっと多くの市民に知ってもらう価値があるともいつも思っている。おそらく、見たことのない市民は、相当多いと思う。

自治会に呼び掛けて、自治会のメンバーに来てもらうのもいいし、人数に制限があるので、どこかの地区の育成会に呼び掛けて、5人でも10人でもいいから席を設けてみてもらう。そうすると、さっき話があったように、さぞ楽しいお祭りかと思っていいたら、何やっているのだろうということで、興味を持つ。それは、子ども心に残っているというのも、それはそれで価値はあるかなと思う。

そんなことを一つ思ったので、私の方からも、教育委員会の方に、どういう工夫のしようがあるか、確かに、毎年、毎年、市議員など来てもらっているが、興味のある人は来てくれているし、こども釋奠だどご両親が来てくれている。もっと、見たこともないという人たちに、1回でいいから、年、5人でも10人でも見てもらう、そういう工夫もあっていいと思う。

そうかと思ったのが、委員から指摘があった、中くらいの冊子、今、足利学校で、お金を払って買ってもらうものは、何があるか。

事務局

ガイドブックというのが、700円で、カラーのものがある。30ページくらいある。

市長

確かに、手ごろな200円くらいの、10ページくらいのものが、あったらいいのかなと思う。工夫をしてもらって、検討してもらうように、私の方からも言いたい。

あしかがみに、毎回、ミニ足利学校知識ではないけれど、囲みみたいな感じで、市民がへーっと思ってくれるような視点で、1年間くらいやってみるのもよいと思う。あしかがみにも、載せなければならないことも多くて、ページ取りが大変かもしれないが、広報サイドとも相談してやってみるというのもある。

「歩き愛です」などに絡んで、長林寺の話とか、特に足利学校を支えてくれた人みたいなキーワードで、もっと、知ってもらう手はないのかということがあって、その辺もなるほどという感じが非常にした。

足利市の老人会を通じて、生活路線バスで市内を旅してもらおうということをやっているが、足利市の中心部に住んでいる人は別にして、東西南北の地域の方は、路線バスで足利学校に来て、50年ぶりに足利学校に入ったとか、生まれて2回目だという人が結構いる。灯台下暗しで、市民ほど、案外、足利学校に足も踏み入っていないし、知らないというようなことが、結構あると思う。

どういうチャンネルを使って、これを浸透させていくかというのが、今日話に出ただけでも、新しいパンフレットの話とか、あしかがみの話とか、釋奠の話とか、そんなことでも、いくつかヒントがあったので、できる範囲でやっていきたいと思う。

委員

中心部の方は、足利学校は近いから、私もそうだったが、夏休みになると必ず、植物採集とかをしたのを持って、足利学校の緑陰図書館の図鑑で名前等を調べていた。自転車で行ける範囲で、緑陰図書館はすごく楽しかった。遠い人は、たぶん体験できなかったのだろうと思う。遠い人たちも、路線バスを活用して来られて、結構いいところだなというのを、今の足利学校を知ってもらいたいというのはある。いろいろなことが、日々起きていると思う。遠い方たちにも、手を差し伸べられるといいと思う。

市長

論語カルタは、何のときにこれを選ぶ子が多いのか。

委員

就学支援、生活保護を受けている子たちを対象に、学習支援を行っている。前半1時間は勉強をして、後半は、小学校4年生くらいだと飽きてしまうので、星座であったり、歴史であったり、国旗であったり、いろいろな勉強カルタを用意している。その中で論語カルタは、選ぶ子は多い。結構難しいが、足利の子は、これができるのだと思う。

市長

論語カルタは、どこで買えるのか。

事務局

商工会議所で買える。

市長

足利学校では売っていないのか。どこで作っているのか。

事務局

足利学校では、売っていない。商工会議所で作っている。

市長

足利学校アカデミーの話も出たが、足利学校は、知ってもらおうというような取り組みは、どういう頻度で、どういうものが展開されているのか。

事務局

足利学校アカデミーとか、儒学等教養講座ということで、儒学に関する本など、あるいは、足利学校の歴史などの講座を、それぞれ年に一度行っている。それぞれ、各10回ずつくらいの講座を設けている。

市長

それは、どこで行っているのか。

事務局

足利学校の講所で行っている。

市長

申し込み制か。

事務局

はい。

市長

だいたいメンバーは、決まっているのか。

事務局

リピーターの方が多い。

市長

興味のある方は、放っておいても参加してくれる。シティプロモーションの考え方ともつながる。いかに、地元のいいところを推奨できる意欲を高めるかということは、シティプロモーションでも大切なテーマだが、その文脈の中で言うと、足利学校というのは、我々のまちには、こういう、ほかのまちにはない、歴史的な素材というか、わかりやすい言い方で言うと、ネタがあるということが、幸せなことだと思う。それを活かしているようで、活かしていないところがあるという感じがする。

委員

さっき、あしかがみの中で、豆知識的なものをスペースを作ってという話があった。そういう、足利学校ならではのものは、いっぱいあると思う。私も、楷の木を、去年、釋奠で見たときに、私の記憶では、去年の紅葉が一番きれいだった。全体が紅葉していたわけではなく、日当たりのいい上のところが、きれいなオレンジ色になっていた。今まで見ていて、あれだけきれいな楷の木の紅葉初めて見たかなと思う。例えば、11月頃になったら、あしかがみに、楷の木の紅葉がみられますという、来る方もいらっしゃるかもしれない。

これは、ネタとすると否定されてしまって残念だったが、私は、杏壇門を入ったところの、あの石は、さざれ石であってほしかった。さざれ石は、君が代で歌っているながら、誰も知らない。たとえば、さざれ石に興味がない人が、さざれ石みたいなものがあるのかと思えば、足利学校で見られるかなと思うだろう。

それに限らず、いろいろなネタがいっぱいあると思う。知らないともったいないし、知らないがために行かなくて、行ってみると感動したり満足したりということが、いっぱいあると思う。ぜひ、知らせてもらいたいと思う。

市長

去年の釋奠の記念講演の時の橋本先生の話が、非常にわかりやすく、印象的だった。漢文学者にとって、足利学校は、聖地ですという言い方を講演の前の懇談でもらった。なんでそんなにすごいのかというのが、よくわかったし、古い段階の、しかも民間が出した本ではなくて、政府、役所が出した本だということに価値がある、だから国宝なのだということを聞かせてもらって、印象的だった。当日の聴衆も、おそらく、ほとんどマニアの方が多かったのだろうと思うが、普通の市民にも、一人でも多く知らせる手段を考えることが、大切かなと思った。

委員

本当にいい話だと、私も思いました。ただ、演題がとっつきにくいので、演題だけを見ると、聞いてみようかなと思う人は、少数になるかなと、ちょっと固いと思います。もう何回かやっていただいて、演題を変えてもいいかなと、本当にいいお話だと思う。

市長

それは、事務局の方でも、工夫が必要だと思う。先生は、アカデミックだから、こういう題をつけるけれど、先生のご意向もあるだろうが、工夫のしようがあるかもしれない。

委員

記念講演の先生も、前田先生のご縁から、皆さんおいでいただいている。前田先生がいてこそその足利学校であるし、そういう意味では、席主の先生の偉大さとか、貢献度というのは、大きいと思う。

教育委員なって、最初に何とかなるといいなと思ったのは、国宝展示だ。そういう意味では、国宝展示も、やや時間はかかったが、できるようになった。いろいろな制約があったり、いろいろな条件があるのだと思うが、できれば、頻度を上げて、国宝展示ができるとうれしいと思う。

市長

お話にも出たが、元号が変わるときは、チャンスだと思う。先日も足利学校では、嘉納治五郎のことを急遽、タイムリーに間を置かずしてしてもらった。ぜひ、4月1日の発表の日からやるくらいの勢いでお願いしたいと思う。

それでは、これで、平成30年度の第2回総合教育会議を終了ということにしたいと思う。

○閉会